

「知的障害をもつ小中高生の介助支援活動」

小林研二 (S28:千葉)

特別支援学校の介助員とは、子供たちの学校生活を充実させる介護の仕事を行う職員（常勤・非常勤）で、移動介助、食事介助、排せつ介助、学習補助等を行います。平日の毎日を楽しく過ごしています。

例えば移動介助では、近くのコンビニへの買い物学習の介助を行います。道路の左端を先生や介助員と一対二で手を繋ぎ、順番を守って歩くことや道路横断と自動車接近時の待機など安全な歩行を学びます。コンビニでは好きなお菓子や飲み物を200円以内で選んでレジで財布からお金を出して支払い、お釣りとレシート受け取ってリュックにしまって帰ります。給食後に学習の成果を見せ合って、みんな笑顔で嬉しそうに食べます。

お昼の給食配膳準備（食事介助）も介助の重要な仕事です。苦手な食材は鉢で小鳥餌サイズに細かく切り刻んで食べられるように工夫し、パンは一口サイズからスティック状と徐々に半年から一年以上かけて毎日少しづつ大きくして、自分で食べる喜びを感じてもらいます。小鳥サイズで食べていた小2生が、好き嫌いなく残さず食べてくれるのを見ると、毎日一口ごとにエライと褒め続けた成果と感激します。

去年担当した小2生の学習介助の例では、「千葉ロッテマリーンズ」のチアリーダーのこども向け応援ダンスを披露してもらったとき、音楽が大好きな子供たちは自然に動きを真似、活き活きと自分の振りでノリノリでした。小6生を送る会でもその振りを覚えていて、先生方と一緒にダンスしていました。こんなとき介助員はステージ裏方手拍子や声かけで盛り上げます。

また、近隣の小2生との交流では、自己紹介で言った大好きなゲームが一緒に一氣にお互いに仲良くなり、交流相手との混成チームでミニボーリングやボッチャで楽しみました。普段より高得点をあげたり、頑張れとの応援の声がでたりしながら、点数をしっかり数えることができました。

また、2024年には大谷翔平選手から贈られたグローブとボールがわが特別支援学校

にも届きました。おかげさまで、以前担当した小3生と遊ぶことができました。

このように教室・給食・トイレ・バス通学や行事などで苦手なことを自分でできるよう、毎日一人ひとりに合わせた介助支援をして、子供たちが介助なしでできるようになった喜びを味わっています。人前で発語できなかった児童が笑顔で近づいてきて、おはようとタッチしてくれたとき、この仕事をして良かったと実感しています。